

特116

686

頼

政

3-2



始





87116  
686



頼政 内巻之三ノ二

此曲ハニ番目物ノ内ニテモ性立チタル曲ニシテ老人物ノ修羅ナレバヨク心ヲ付ケテ  
謡フベシ

役割

ワキ

旅僧

前シテ

老人

後シテ

源頼政

李 類別

五月  
山城國久世郡宇治平等院  
紫束附

ワキ

角帽子

着附無地熨斗目

水衣

緞子腰帶

扇

珠教持

前シテ

面朝倉尉(又ハ笑尉ニモ)

尉髪

着附無地熨斗目

茶紐水衣

後シテ

緞子腰帶

襟浅黄

尉扇指ス

ニ概表

面頼政

頼政頭巾

白茶金襴鉢巻

無色厚板唐織

法被

半切

縫紋腰帶

襟白浅黄

太刀佩

修羅扇持

是ハ諸國一見乃シ名乗ハ確カリト謡ヒ又是よりト氣ヲ変ヘ「あひ外ト確  
カリトあまを乃シ道行ハサラリト謡ヒ出シ「今越ク」ト打切ノ前開ル心  
伏見のヨリ元へ戻シ「宇治乃里」モ着キリト返シ開ル心「笑や遠國子  
て」ヨリ氣ヲ変ヘ「山乃海川此流す」ト心シ「遠乃里」ト確カリメニ「あひ外人  
乃事」依「う」トト氣ヲ變ヘテサラリト謡フベシ





六行表

あふく序傳此呼掛ハ開カニ謡ヒ出シ是を以てトワキハサラリト所ヨハ  
信ハトト抑ヘテ名所ト旧跡トト心シテいざ白波乃宇流川ト開カ  
ニ舟と橋とト心シテ海ノうねるヨリ元へ戻シ何とか考ヤリ申さス  
確カリ謡フベシ

七行表

いや左様トトワキハサラリトぞおバニトシテハ抑ヘテお撰撰法師ウ庵  
トトサラリメニ我庵ヨリ抑ヘ世を宇流山ヨリサラリメニ人々云ふなりと  
こそト開カニ耐ハ志ラバトト重メニ又あはトトワキハサラリト以下凡テシテ  
ハ抑ヘワキハサラリト謡フベシ

七行裏

め申子ヤトサラリメニ是こそ平等院トト氣ヲ変ヘ又是成ハ約殿ト  
氣ヲ変ヘお面白キトサラリトぞんト抑ヘテ謡ヒ出シ昔此所ヨリ  
開カニメニ舟乃芝ト抑ヘテ痛リヤトワキハサラリト又よく  
序早外物ト前ノ氣ヲ受ケテ月も日とト心シテ切様申せト抑  
ヘテうつとを名ひ終り了ト心シテ夢乃浮世のト地ハ前ノ氣ヲ受ケ  
開カニ謡ヒ出シ名所もあはれは子々ト返シ開カニ謡フベシ中入

七行裏

おハお政のトサラリトいざやヨリ抑ヘル心ぞりよる人ト前ノ氣ヲ受ケ  
乃裝りを侍らト返シハ抑ヘテ謡フベシ

六行表

一声越ニ段血ハ涙鹿乃ト確カリ謡ヒ出シ其間浮惠一ヤト心シテ伊勢武  
名ヨリ氣ヲ變ヘ朗ラカニうりきるト抑ヘル心うたこりのヨリ氣ヲ變ヘ  
嶋牛乃ト地ハ前ノ氣ヲ受ケわらうなりきるト確カリトあら責乃ヨリサ  
ラリトやだやな法師の身とトトワキハサラリト謡フベシ

七行表

突や紅ハ因生トト抑ヘル心口ハ舌よみ終トスラリト以下掛合シテハ抑ヘメ  
ニワキハサラリト謡ヒ佛乃後トト地ハサラリト出テ佛果トト抑ヘル心ニテ謡フベシ

四行裏

今ハ何をトト確カリ謡ヒ出シ押佐承乃夏ノ比トト地ハ氣ヲ變ヘテ浮世時  
もトト抑ヘメニツカリト三井寺やトト前ノ氣ヲ受ケテ開カニ謡フベシ

四行表

去移ト曲ハ抑ヘテ謡ヒ出シ寺とや治と乃ト上端ハ確カリトよる敵をト  
カ、ツテ侍みたりト開カニ謡フベシ

三行裏

去移トト確カリト開カニ謡フベシ  
引たりト又心シテ出すがヨリ抑ヘル心ニテ開カニ左右ありト元へ戻シ田  
原乃又を即忠綱トト抑ヘル心宇流川乃先陣我ありトトサラリト名所も  
あはれ三百余騎トト抑ヘテ謡ヒ地へ渡スベシ

六行裏

うらむをトト地ハ受ケテ開カニ出テ忠綱トものをトトシテハ抑ヘテ水乃邊  
巻トト地ハ元へ戻シ去移トト少シク抑ヘテ我もトトカ、ツテ以下シテハ抑ヘ  
ル心ニテ地ハ戻シテ謡フベシ

二行表

是迄と志ひトトシテハ心シテ返シノ地ヨリ元へ戻シ流石名を得トト身  
てトト抑ヘル心埋木乃トトシテハ朗ラカニトト謡ヒあともひ終トト地ハ元へ戻  
シトト抑ヘル心埋木乃トト開メテ謡ヒ納ムベシ



頼政

<sup>早</sup>見<sup>の</sup>諸國一見<sup>れ</sup>僧<sup>も</sup>く<sup>の</sup>我<sup>此</sup>經  
 の都<sup>を</sup>作<sup>して</sup>洛陽<sup>の</sup>寺<sup>社</sup>跡<sup>り</sup>  
 なく<sup>を</sup>ぐ<sup>ら</sup>い<sup>り</sup>て<sup>い</sup>又<sup>見</sup>より<sup>南</sup>都  
 子<sup>ま</sup>ら<sup>む</sup>や<sup>と</sup>思<sup>ふ</sup>作<sup>る</sup>所<sup>の</sup>雲<sup>の</sup>  
 い<sup>り</sup>る<sup>法</sup>の<sup>お</sup>も<sup>い</sup>く<sup>程</sup>行<sup>来</sup>ま<sup>さ</sup>  
 深<sup>き</sup>も<sup>本</sup>備<sup>の</sup>弊<sup>と</sup>と<sup>越</sup>え<sup>く</sup>依<sup>見</sup>



















人乃ちまの松は露のせよはなみえんと  
なうたりとらふとあ思ひはひとよ  
上清  
西まの浮世の中宿のうらぐらうちり  
橋もり年をとて若乃浪もり  
渡も遠方人よお申我頼政が世  
かか乃もあはれも笑はせりく  
保  
相々頼政乃世雲がうらよ顯き我よ

詞よのりきんぎも左は跡吊も  
かきし思のり人の浪花くけも  
西の洗店に扇のまきと行敷て西  
契りもまたらふく  
血の涙鹿  
乃けく成くお波たもせ流白双  
骨をもくたかよと守治の綱付の  
浪あら周浮高や伊勢武者の皆



火威ヒノイのようニひまニくニ字ノ治メありト。  
 地チ牛ウシの角ノあらウひシ。  
 甲カ冑ウとシ常ニはシ経ノよりシ承ル。  
 後ノ因リつル源ノ三位ノ具ニ出ル。  
 讀ム人ノかシもシ法ノのカもシ。  
 貴ノ方ノはシ中ノやシとシ経ノ。  
 氣ノ莫クのカもシ。  
 別ニあリるニ法ノもシ。  
 平ノ本ノ院ノもシ。

まシくシもシ紅ノ園ノ生ルもシ植ルもシ。  
 女ノ名ノつラぬラまシくシ頼ノ政ノとシはシ。  
 於テはシつラづクもシれル所ノ経ノカシ。  
 片ノ心ノ易ク思フもシ五ノ十ノ屢ノ將ノのカもシ。  
 小ノ成ノ仏ノまシくシ疑ヒあリもシてシ也シ。  
 直ノ道ノもシ別ニあリるニ法ノもシ。  
 平ノ本ノ院ノもシ。



入庭の面 思ひ出さる 佛在世  
 上清の鏡に法の場なく 愛する平ホ大  
 慧れ切か子頼政が 仏果とえんる者  
 今うあ行こつて入ま 具さ  
 源三位頼政 執心乃後 淳沈等 因果  
 後あらうひさう 押治義乃  
 夏のばよりあまの 諷叛とてあやし名

もろ倉乃宮の内を 井乃よりう子有  
 甲月月の初と者が出さ 引さ時  
 志もよか 江路や三井寺りて 打ち  
 後ふ 去る 率家め 時と 出らさむ  
 教萬跨乃兵と 開乃 東ノ 遣のひと  
 字もや音羽乃山つら 荒山科乃 実をま  
 本備の 開と どりさうよみく 愛さうさ



世のつびごころうらうらうの行橋打渡り  
 大和路指て急ぎよヤマト寺とさう路と  
 の向きく開路のひまもあか宮の  
 六度まで歩落馬あて煩らわせ給  
 きり見ぬれあは寝めらさるゆゑ  
 ありとて平本院あて物自座をか  
 ま入つて空橋入中の向りも  
 ありとて平本院あて物自座をか  
 ま入つて空橋入中の向りも

志のつびごころうらうの行橋打渡り  
 大和路指て急ぎよヤマト寺とさう路と  
 の向きく開路のひまもあか宮の  
 六度まで歩落馬あて煩らわせ給  
 きり見ぬれあは寝めらさるゆゑ  
 ありとて平本院あて物自座をか  
 ま入つて空橋入中の向りも  
 ありとて平本院あて物自座をか  
 ま入つて空橋入中の向りも







ねよよつてたのびるりのたけあれども  
 一誇も流ど此方乃者よだめらであら  
 きの味方乃勢種あぐら踏もたぬび  
 半町計そくひ志さのくまわらまを  
 揃つてまを寂ぢと戦ふりたを種よ  
 入乱き種もくく殺入の頼政が  
 矢のうつる兄弟の者もこれきれを

今うけりる期もくまを地  
 若き者れ果是までと思ひて  
 平等院乃庭の面見成芝の上よ  
 扇を赤敷よりひめぎの輪座と組て  
 刀と抜あぐらさひぐちをえりまをそ  
 埋木乃花もあるもあるよ身  
 乃成をてぬえなりまらあことひ



270  
269

復製不許

宗家  
觀世  
元滋

大正五年十二月五日 印刷  
大正五年十二月十一日 發行

訂著作者 觀世元滋

發行兼 印刷者 檜常之助

印刷所 江川堂

京都市上京區三條通麩屋町東北  
東京市四谷區傳馬町貳丁目十九番地  
(圓電話上二千百九十番)  
(振替貯金大塚三千六百八番)  
(電話番町八六一)

たまに寺僧よりかたりしものあらはに  
もててもおもしろい種々の縁よりの扇の  
まじりあひの陰は輝くもてうきよき  
に立ゆふかきくうせよたり



終

